

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成29年7月31日

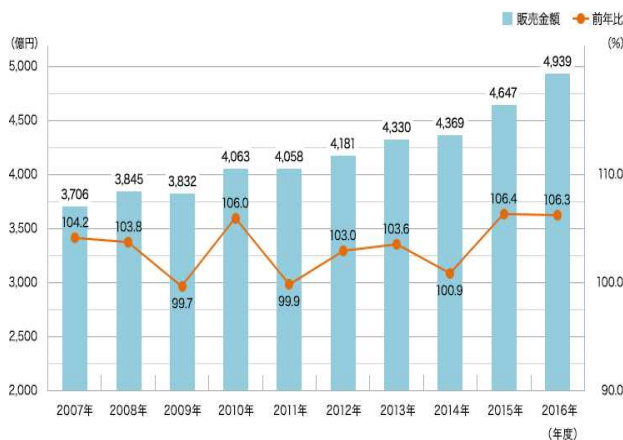
県民の皆様統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

梅雨も明け、一気に夏本番。夏に食べたくなるものと言えば？

今回は、アイスクリームに関する話題、データの紹介です

アイスクリーム類及び氷菓販売金額の推移



出典元：一般財団法人日本アイスクリーム協会

左のデータは、アイスクリーム等の販売金額の推移です。

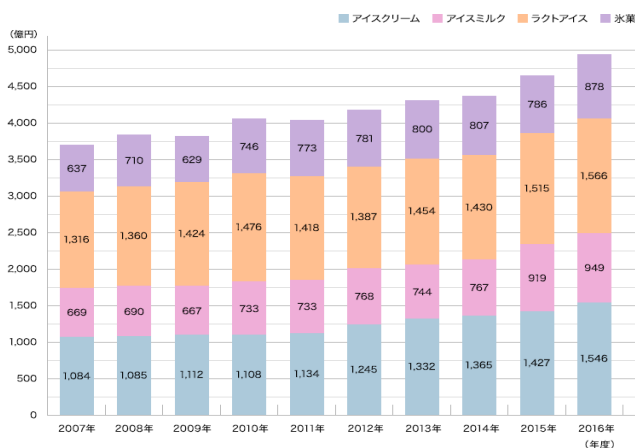
アイスクリームの販売金額は年々上がっていることが分かりますね。

ところで、一言で「アイスクリーム」と言っても、製品に含まれる乳成分の量によって4種類に分かれることを知っていましたか？

- ・アイスクリーム（乳固形分15.0%以上うち乳脂肪分8.0%以上）
- ・アイスマルク（乳固形分10.0%以上うち乳脂肪分3.0%以上）
- ・ラクトアイス（乳固形分3.0%以上）
- ・氷菓（上記3種類以外のもの）

パッケージに種類が表示されていますので、今度、確認してみてくださいね。

種類別販売金額の推移



出典元：一般財団法人日本アイスクリーム協会

種類別では、乳成分の量が比較的少ない「ラクトアイス」が最も売れており、その次は、乳成分が多く含まれてミルクの風味が豊かな「アイスクリーム」が売れているとは、少々意外ですね。

ところで、世界で最もアイスクリームが食べられている国を知っていますか？

昨年の国別の一人当たりの年間消費量は・・・

- | | | |
|----|----------|----------|
| 1位 | オーストラリア | 19.3リッター |
| 2位 | ニュージーランド | 15.5リッター |
| 3位 | フィンランド | 13.2リッター |
| 4位 | アメリカ | 13.1リッター |

なんとなくそんな感じがしますね。

日本は17位で、一人当たり年間で6.5リッター食べているということです。

右のグラフは、1世帯当たりのアイスクリームの支出金額の過去5年間の月別の推移です。

7月と8月の暑い時期にアイスクリームが最も購入されているのが分かりますね。

7月と8月の2ヶ月の支出金額だけで、年間の支出金額の約3割を占めます。

昨年の1世帯当たりのアイスクリームの年間支出金額は8,908円ということです。

皆様のご家庭はそれよりも多そうですか？それとも少なそうですか？

右のデータは、昨年の都道府県庁所在都市及び政令指定都市別の1世帯当たりの支出金額です。

九州や沖縄の県庁所在都市は軒並み高いと思いきや、意外と低いことが分かります。

熊本市の昨年1世帯当たりの支出金額は8,636円で、全国で36位でした。

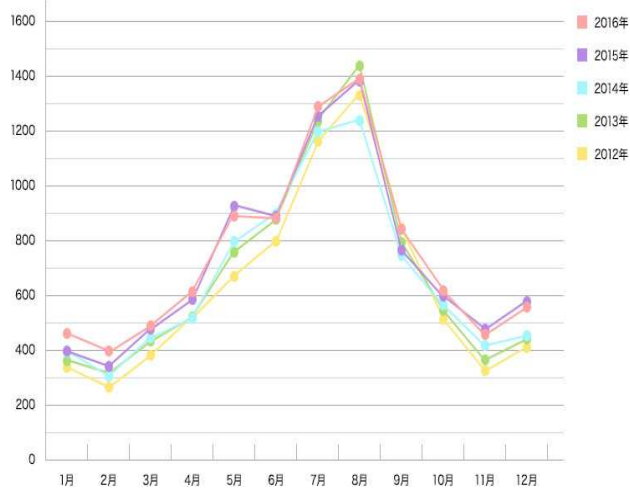
熊本よりも涼しい北海道や東日本の都市が熊本市よりも支出金額が高いとは意外ですね。

アイスクリームは気温が22～23度を超えると売れるようになりますが、30度を超えると氷菓やかき氷が売れるようになり逆転します。

一般に、8月になると人間の体は基礎代謝がもっとも低い時期となり、体は産熱を抑えるため、低脂肪・低カロリーのを好むようになり、乳酸飲料や牛乳など脂肪分の高い飲み物は、盛夏は売り上げが落ちることが分かっています。

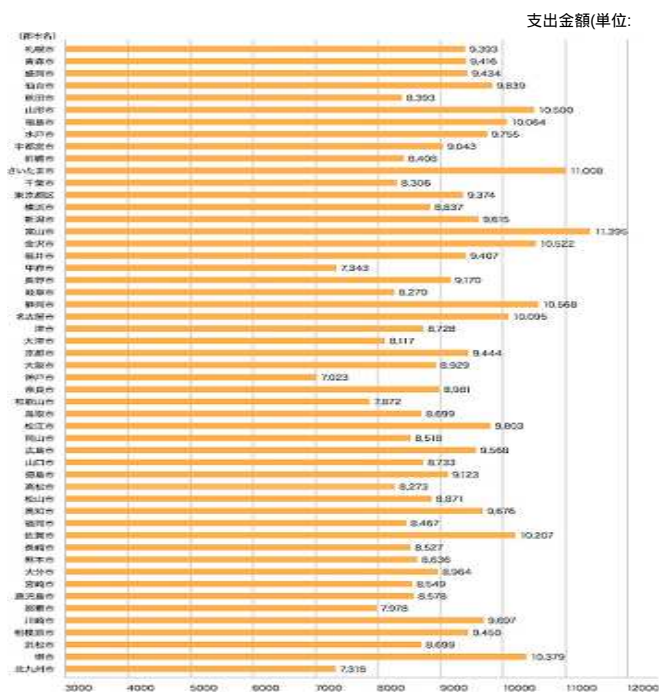
ちなみに、支出金額 上位の石川、福井、栃木、岩手等の夏場の平均気温は、20台前半で、アイスクリーム販売の適温となります。

1世帯当たり支出金額の年別月別推移(1月～12月)



出典元：一般財団法人日本アイスクリーム協会

都道府県庁所在都市等1世帯当たり支出金額(2016年)



出典元：一般財団法人日本アイスクリーム協会

定説として思い込んでいる事象についても、データを検証すると必ずしも正しくない場合があります。資料を見る際は、「データ」と「解釈」を分けて考え、「データ」から導き出した「仮説」の検証を繰り返すプロセスが重要です。

熊本県の統計情報は

http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、8月25日(金曜日)に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1

電話：096-333-2174 / Fax：096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

さらに、年少人口指数および老年人口指数を2次元の散布図にプロットして、2つの指数の相互関係を見たグラフを下図に示します。このグラフによれば、各都道府県の特徴がうかがえます。

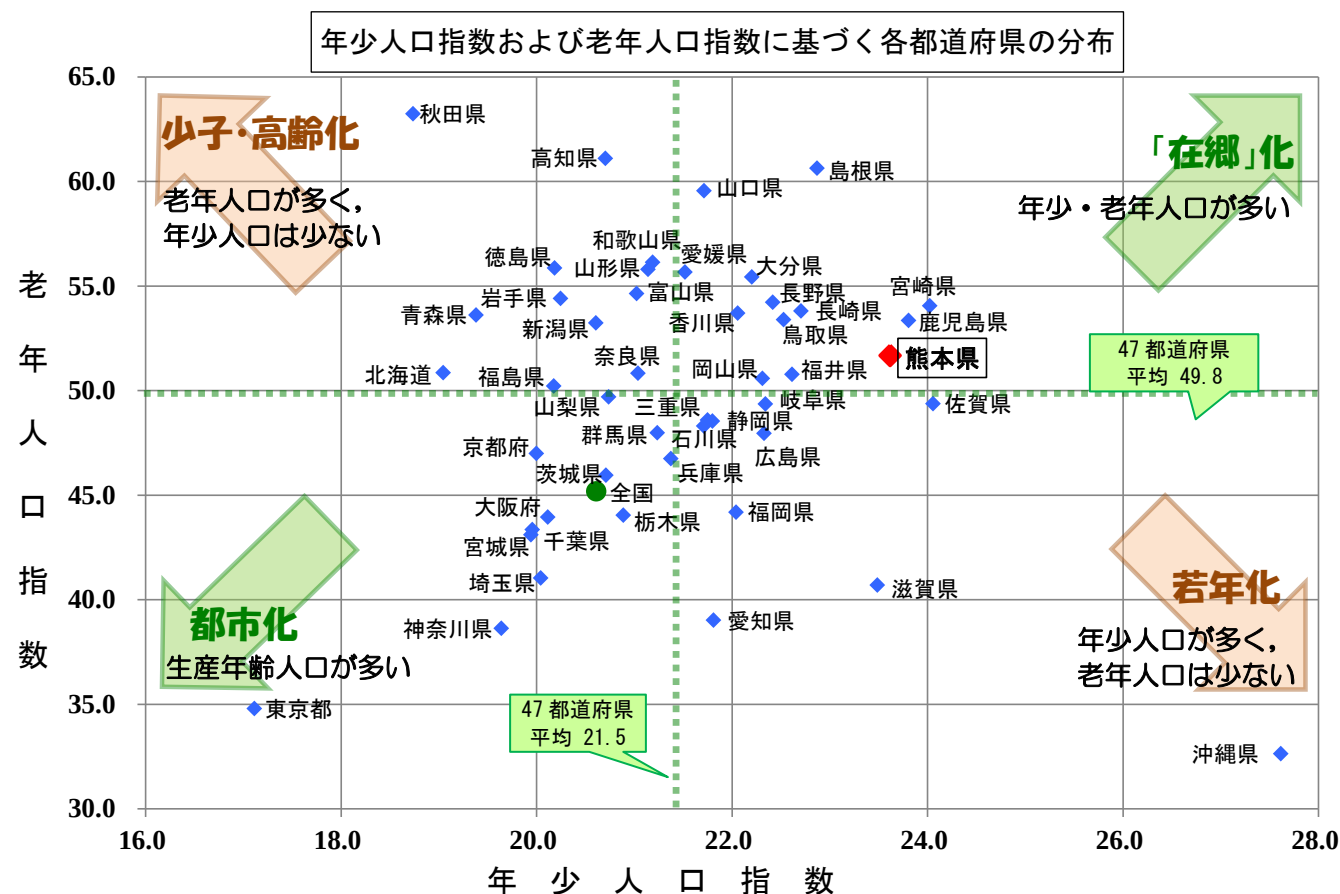
グラフの左下には、東京都、神奈川県、埼玉県、さらに大阪府や愛知県といった、いわゆる三大都市圏が集中しています。例えば東京都は、生産年齢人口の割合が大変多く、相対的に年少人口・老年人口ともに少ないことがわかります。

グラフの左上には、老年人口指数が高く、年少人口指数が低い県が位置し、例えば秋田県では、生産年齢人口約1.6人で高齢者1人を支える構造になっています。

グラフの右上には、年少人口指数、老年人口指数のどちらも高い県で、熊本県を含む九州各県などが位置しています。これらの県では、生産年齢のあいだは都会で勉強や仕事に励み、熟年期以降に故郷にUターンしてセカンドライフを過ごすような人も多いのかも知れませんね。

グラフの右下の沖縄県は、生産年齢人口に対する年少人口の割合が多いのはもちろん、老年人口の割合が少なくなっています。

都市化が進みすぎて、仕事で疲れて家に帰っても癒してくれる家族がいなくて、または、故郷に子供や両親を置いてきて、大型連休にしか顔を合わせられない、どちらにしても、ちょっぴりさみしいものです。その地域地域の特性がある中で、住んでいる人の世代間のバランスが取れ、お互いに助け合うことのできる、明るいまちが増えてほしいと思います。



「人口推計(平成28年10月1日現在)」(総務省統計局)(<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001177743>)を加工して作成

熊本県の統計情報は

「https://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の統計アラカルトは、9月15日(金曜日)に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話：096-333-2174 / F a x : 096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

Facebook 始めました。

https://www.pref.kumamoto.jp/kiji_15237.html?type=top

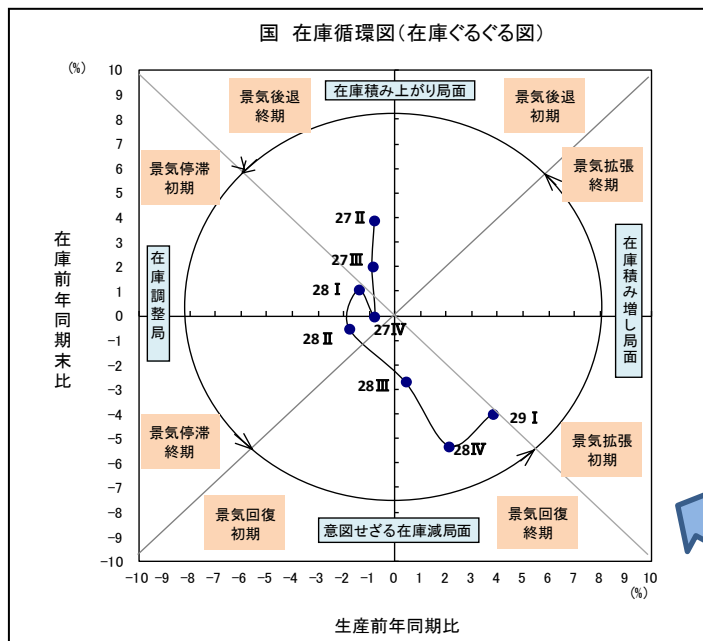
統計アラカルト

熊本の統計情報 平成29年9月22日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

「在庫循環図」って知ってます?? ～ 景気はぐるぐる回る!?(@@) ~



「在庫循環図」

横軸：生産の前年比

軸の右に行くほど、生産が前年より大きく増加。

縦軸：在庫の前年比

軸の上に行くほど、在庫が前年より大きく増加。

※1：鉱工業指数

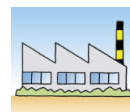
鉱工業製品を生産する国内（県内）の事業所における生産、出荷、在庫の数量（金額）を指数化したもの。景気判断の指標の1つとしても利用されています。

I：1～3月

II：4～6月

III：7～9月

IV：10～12月



例：29 I ⇒ 平成29年 I 期（1～3月）

◆「在庫循環図」とは、「鉱工業指数」(※1)という統計データを使って作る図で、少し乱暴に言えば「製造業の景気状態」を把握する景気分析・予測ツールの1つです。

◆「在庫循環図」において、理論上、景気は反時計回りに進んでいくので、「在庫循環図」を使うと製造業の景気の動きが視覚的に分かりやすいという特徴があります。

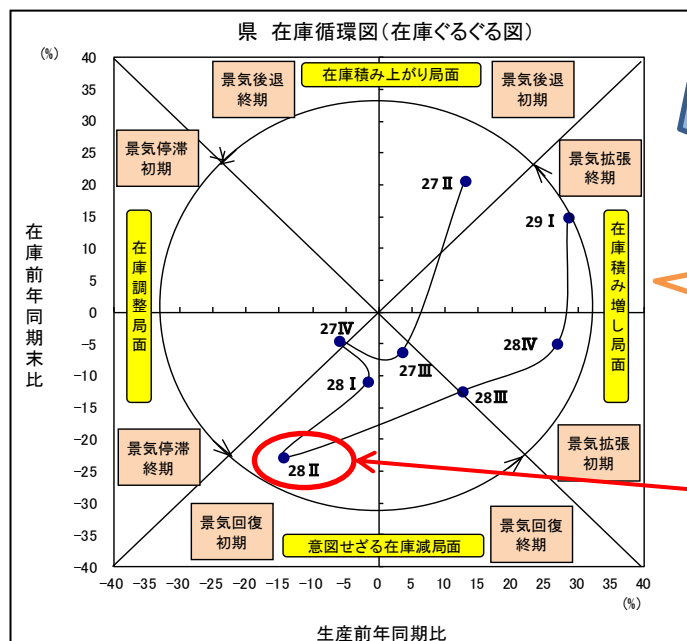
◆それでは、実際に、国の在庫循環図を見てみましょう。

◆景気局面の分類方法はいくつかありますが、ここでは、上図のように分類したものを使うことにします。

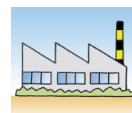
◆理論どおり、反時計回りに景気が進んでいることが見て取れますね。

◆そういえば、余談になりますが、25年くらい前は、「在庫循環図」のことを「在庫ぐるぐる図」と言ったりしてました。「熊本県鉱工業生産・出荷・在庫指数 平成3年年報」(熊本県発行)という統計書にも「在庫ぐるぐる図」という名称で掲載(64ページ)されています。お堅いイメージの「統計書」にしては、ちょっとクスッと笑ってしまうようなネーミングですね。

◆さて、本題に戻しましょう。平成28年 I 期（1～3月）に「景気停滞 初期」局面にあった国の製造業の景気は、その後徐々に回復傾向を見せ、平成29年 I 期（1～3月）には、「景気回復 終期」局面、それも、ほとんど「景気拡張 初期」局面に近いところに位置していることが分かり、理論上は、今後の景気拡大に期待が持てる状況にあります。（実際には、そうならないかも知れませんが・・・。）



I : 1 ~ 3月 II : 4 ~ 6月
III : 7 ~ 9月 IV : 10 ~ 12月



例 : 29 I ⇒ 平成29年 I 期 (1~3月)

「29 II」はどこに来るのでしょうか？
是非、自分で座標を追加してみてください！



”熊本地震”
発生！

◆では、次に、本県の「在庫循環図」を見てみましょう。

◆国とは違って、きれいな反時計回りにはなってません。よく「経済（景気）は生き物」と言われますが、「在庫循環図」も理論どおり（反時計回り）にならないことも当然あり、それもお愛嬌ってところでしょうか。

◆ただ、平成27年Ⅳ期（10～12月）以降は、反時計回りに本県製造業の景気局面が進んでいることが分かります。

◆さて、平成28年Ⅰ期（1～3月）に「景気回復 初期」局面にあった本県製造業の景気は、”熊本地震”のあった平成28年Ⅱ期（4～6月）に一時失速したものの、その後は急速に回復傾向を見せ、平成28年Ⅲ期（7～9月）にはついに「景気拡張 初期」局面に入りました。

◆平成29年Ⅰ期（1～3月）には、「景気拡張 終期」局面に位置していますが、このまま「景気拡張 終期」局面に踏み止まるのか、それとも、次の景気局面である「景気後退 初期」局面に移ってしまうのか、今後の動きが気になるところです。

◆興味のある方は、平成29年9月下旬に公表予定の「鉱工業指数 四半期速報（平成29年Ⅱ期（4～6月））」をご覧ください（←と、さりげなく宣伝）、この「在庫循環図」に”29Ⅱ”の座標を落とし込んで、ちょっとだけエコノミストになった気分、プチ経済分析を楽しんでください！



【補足】

今回の分析はあくまでも一例であり、「この分析結果は統計データに基づくものなので、絶対に正しいのだ！」などと主張する意図はもちろんありません。

今回お伝えしたかったのは、「統計データを使うと、こんな分析もできるよ！統計データっておもしろいんだよ！」ということであり、少しでも”統計”に興味を持ていただければ幸いです。

みなさん、是非、いろんな統計データを自分で料理（分析）して、楽しんでみてください！

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、10月中旬に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1
電話：096-333-2174 / Fax：096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成29年11月14日

県民の皆様には統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。



災害ボランティア ありがとうございました！



社会生活基本調査は、生活時間の配分や余暇時間における主な活動の状況など、国民の社会生活の実態を明らかにするための基礎資料を得ることを目的とした調査です。直近では平成28年10月20日を基準日として行われ、先ごろ全国集計結果が公表されました。

調査内容は、過去1年間の生活行動に関するものと、指定された2日間の生活時間の使い方に分けられます。

生活行動に関する調査では、主に以下の内容を調査しました。

- 学習・自己啓発・訓練（英語を勉強したか、パソコン、介護関連、芸術文化 など）
- ボランティア活動（健康医療関係、まちづくり、自然保護、災害関連 など）
- スポーツ、趣味・娯楽（野球、サッカー、つり、囲碁、パチンコ、カラオケ、ガーデニングなど スポーツ21種類、趣味・娯楽33種類）
- 旅行（国内観光旅行、国内帰省等、海外旅行）
- スマホ・パソコンの利用（ネットショッピング、趣味娯楽、交際関係（家族、友人、その他）など）

生活時間に関する調査では、指定された2日間を15分単位で記録し、それぞれの行動を誰と一緒に行ったかを調査しました。

具体的にはどのようなことがわかるのでしょうか。

総務省統計局のホームページの「47都道府県ランキング」

(<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/rank/index.htm>)

には、以下のような項目が掲載されており、各県ごとの特徴が表れており、大変興味深い結果となっています

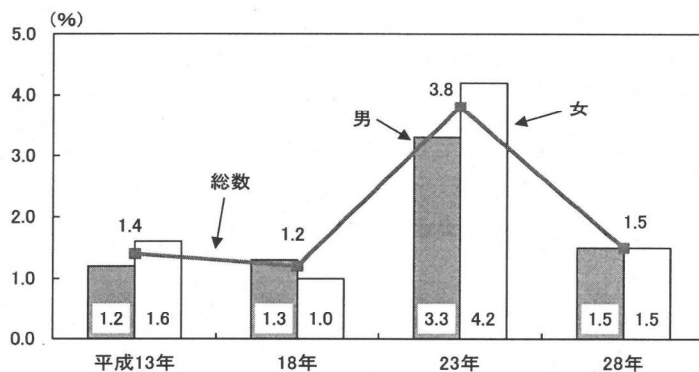
生活行動	生活時間
 ○ボランティア熱心！？ランキング (熊本県14位30.4%)	 ○睡眠時間たっぷり！？ ランキング (熊本県9位7時間51分)
 ○生スポーツ観戦が盛ん！？ ランキング (熊本県20位17.2%)	 ○イクメン！？ランキング (熊本県39位53分) (6歳未満の子供がいる夫の1日当たりの家事関連時間の土日を含む週全体の平均)
 ○園芸・ガーデニングが人気！？ ランキング (熊本県30位26.9%)	 ○通勤・通学時間が長い！？ ランキング (熊本県31位57分)

また、男女別や年齢別といった属性別の集計に加え、活動の種類別や頻度別といった集計も掲載されています。

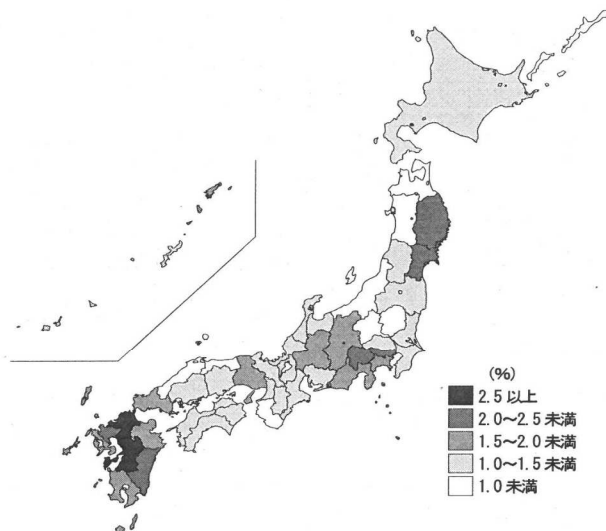
それでは、直近の調査から災害に関するボランティア活動に関する行動者率を見てみましょう。

- 「災害に関係した活動」の行動者率は、東日本大震災の発生した平成 23 年に比べ 2.3 ポイント低下しているが、平成 18 年と比べると 0.3 ポイント上昇
- 「災害に関係した活動」の行動者率を都道府県別にみると、熊本県が 8.4%と最も高く、次いで福岡県が 2.6%などとなっており、平成 28 年熊本地震の発生した九州地方での行動者率が高い

「災害に関係した活動」の男女別行動者率の推移（平成 13 年～28 年）



「災害に関係した活動」の都道府県別行動者率（平成 28 年）



—上位 10 都道府県—

順位	都道府県	行動者率 (%)
1	熊本県	8.4
2	福岡県	2.6
3	岩手県	2.4
4	山梨県	2.3
5	佐賀県	2.2
5	宮崎県	2.2
7	宮城県	2.0
7	東京都	2.0
9	鹿児島県	1.9
10	長野県	1.7
10	大分県	1.7

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、11月下旬掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1

電話：096-333-2174 / Fax：096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成29年11月30日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

統計調査を陰で支える統計調査員とは？

各種統計調査において、調査票の配付、回収を郵送やインターネットで実施している調査もありますが、多くの調査では調査員が自宅や事業所を訪問して調査票の記入、提出をお願いし実施しています。

プライバシー意識の高まりや住環境の変化など調査環境が厳しくなっていく中で、重要な統計調査を円滑に実施するため、調査員の方々には、日々、ご尽力いただいております。

このようなことを踏まえ、本県では各種統計調査発展のために尽力し、その業績が特に顕著な個人や団体に対し、その功績を称えとともに、調査業務円滑化に向け、更に士気を高めていただくため、統計功労者の表彰を行っており、去る11月22日(水)に表彰式を開催しました。

また、「統計の日」(10月18日)の関連事業として実施されている統計グラフコンクールについて、全国コンクール入賞者への賞状伝達及び熊本県コンクール入賞者への賞状授与を併せて行いました。



1 統計功労者表彰

(1) 県知事表彰

受賞者 13名

表彰基準

統計調査員として統計調査に10年以上又は統計調査に20回以上従事しその功績が顕著であると認められる者で市町村長が推薦する者

(2) 総務大臣表彰

受賞者 9名

表彰基準

評定期間中に、指導員、統計調査員として従事し、その成績が優秀と認められる者

(3) 厚生労働大臣表彰

受賞者 調査員1名、事業所7

表彰基準

・調査員 毎月勤労統計調査業務に従事した期間が連続して1年6か月以上であり、人物及び業務成績が特に優れた者

・事業所 毎月勤労統計調査に対する理解及び協力の状況が良好で、調査票の提出が迅速で、その記載内容が適切である調査事業所

(4) 経済産業大臣表彰

受賞者 2名

表彰基準

平成28年度に構造統計調査に従事しており、かつ、平成29年3月31日現在、構造統計調査員に15回以上又は動態統計で計10年以上従事している者

(5) 熊本県統計協会会長表彰

受賞者 市町村職員 2名、調査員30名

表彰基準

統計事務に5年以上従事し、その功績が特に顕著で他の模範と認められ、市町村長が推薦する者

2 統計グラフコンクール表彰

(1) 熊本県統計グラフコンクール (応募数86点)

受賞者

・特別賞 10点、入選22点、佳作7点

(2) 統計グラフ全国コンクール

受賞者 入選1名、佳作4点



統計グラフコンクール表彰作品の一部

左: 熊本県知事賞「自分らしい生き方を求めて～「がん」を通して考える～」(高等学校以上の生徒・学生一般の部)

右: 熊本県議会議長賞「やさいとなかよく なろう」(小学校1年生及び2年生の児童の部)



熊本県の統計情報は

http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297 をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、12月中旬掲載予定です。

問合せ先: 熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1

電話: 096-333-2174 / Fax: 096-384-7544 / メール: toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成29年12月15日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

あなたの街は、和菓子派？洋菓子派？

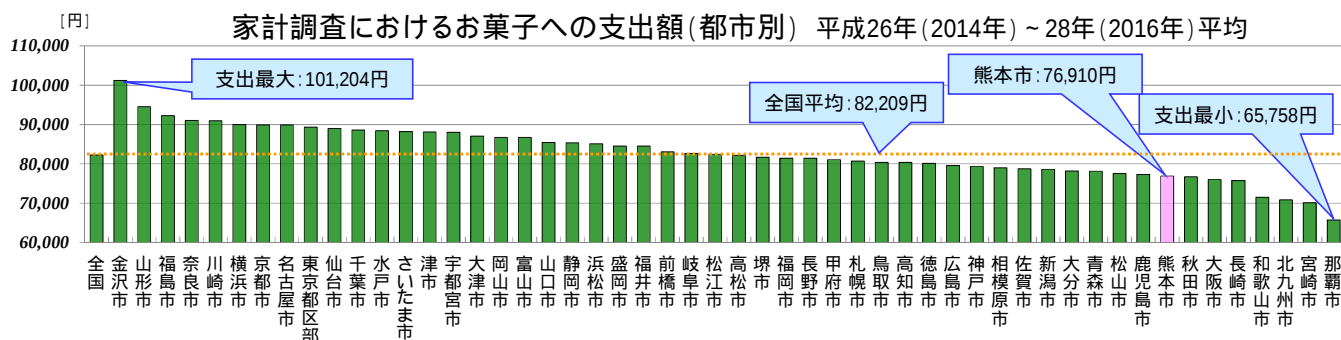
～家計調査に見る各都市のお菓子の人気傾向～

日本各地にはおいしいお菓子がたくさんあって、お菓子に関する家計の支出もさまざまです。和菓子好きの街もあれば、洋菓子が好評の街も。それぞれの街にどんな傾向があるのでしょうか。今回は家計調査結果から、各地のお菓子の人気動向を探ってみます。

総務省統計局では、毎月、全国約9千世帯を対象に家計調査を実施しています。この調査では、各世帯がどのようなものに、幾ら支出し、収入や貯蓄・負債などにより、それらがどのように変化するか把握し、政策の立案や評価の基礎資料に活用されています。

都道府県庁所在地及び政令指定都市（合計52都市）の家計の支出ランキング（平成26年（2014年）～28年（2016年）平均）が掲載されています。この中から、都市別のお菓子への支出動向を見てみましょう。

まず、二人以上の世帯におけるお菓子への支出額を見てみましょう。全国平均の年間支出額 82,209 円に対し、最大の金沢市では 101,204 円（全国平均の 123%）。最小の那覇市では 65,758 円（同 80.0%）。お菓子への支出額を見ても、都市ごとの違いがみられます。ちなみに熊本市の支出額は 76,910 円（同 93.6%）です。



（出典）総務省統計局 「家計調査（二人以上の世帯） 品目別都道府県庁所在地及び政令指定都市ランキング（平成26年（2014年）～28年（2016年）平均）」
（<http://www.stat.go.jp/data/kakei/5.htm>）に掲載の「菓子類」を加工して作成。以下同じ。

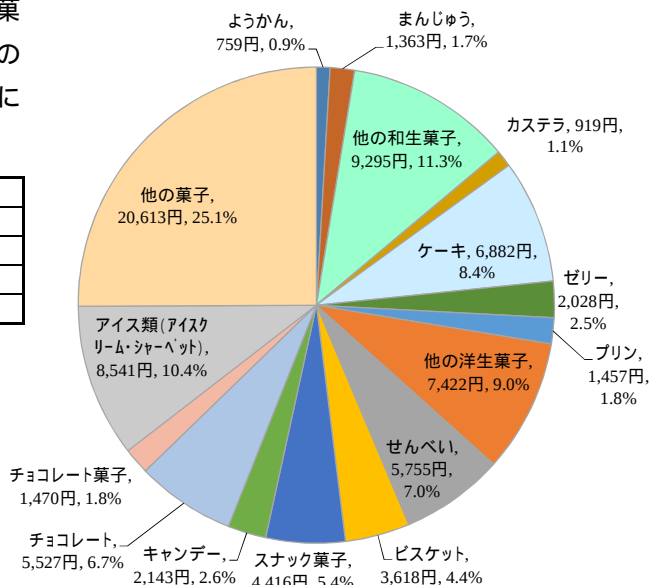
続いて右のグラフは、二人以上の世帯の全国平均における、お菓子ごとの支出額（円）を、支出総額に占める割合（%）として示したものです。グラフで見ると、家計調査では、お菓子を以下の16種類に分類しています。

家計調査におけるお菓子の分類（16種類）			
ようかん	まんじゅう	他の和生菓子	カステラ
ケーキ	ゼリー	プリン	他の洋生菓子
せんべい	ビスケット	スナック菓子	キャンデー
チョコレート	チョコレート菓子	アイスクリーム・シャーベット	他の菓子

グラフでは例えば、ようかんへの支出額（759 円）は、お菓子への支出総額 82,209 円中の 0.9%とみることができます。

お菓子の価格には、駄菓子屋で買える身近なものや、専門店でしか手に入らないような高額なものもありますが、右のグラフに示すような支出額の大きさが、だいたいの人気の傾向を反映していると見ることができます。

全国平均のお菓子別の支出額及び割合



ところで、各都市におけるお菓子ごとの支出額は、全国平均の支出額と、傾向が一致するのでしょうか。一例として、全国平均と熊本市とで、お菓子への支出額を比較してみました。下表では 16 種類のうち一部を掲載します。

支出額(円)	総額	ようかん	まんじゅう	他の和生菓子	カステラ	ケーキ	ゼリー	プリン	他の洋生菓子	...	他の菓子
全国平均	82,209	759	1,363	9,295	919	6,882	2,028	1,457	7,422	...	20,613
熊本市	76,910	747	1,877	11,475	678	7,687	1,981	1,214	6,542	...	15,318
差額(円)	▲5,299	▲12	514	2,180	▲241	805	▲47	▲243	▲880	...	▲5,295
差額の割合(%)	▲6.5	▲1.6	37.7	23.5	▲26.2	11.7	▲2.3	▲16.7	▲11.9	...	▲25.7

興味深いことに、熊本市のお菓子への支出額は、総額で全国平均に比べ 6.5%も下回っているのに対し、「まんじゅう」で 37.7%、「ケーキ」で 11.7%、全国平均より支出額が多く、人気に違いがあるようです。

そこで、前ページの円グラフと同様に、熊本市のお菓子ごとの支出額と割合を円グラフで描いてみると、右のようになりました。前ページの円グラフとは異なる傾向が見られるので、別の観点から分析を加えてみましょう。

ここでは、それぞれのお菓子ごとの支出額と、全国平均の支出額とを、比率で表すように、レーダーチャート形式で可視化してみます。すなわち、お菓子ごとに、支出額の全国平均を 100(%)と置いて、熊本市の支出額の比率をパーセンテージで表すことによって、どのお菓子が好まれているかを視覚的に分析するものです。「ようかん」を例にとると、

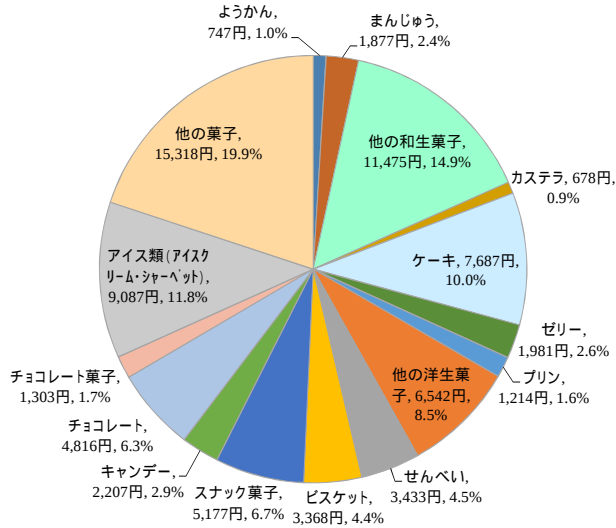
$$(熊本市) 747(円) \div (全国平均) 759 円 \times 100 = 98.4 (\%)$$

のように数値化したグラフになります。

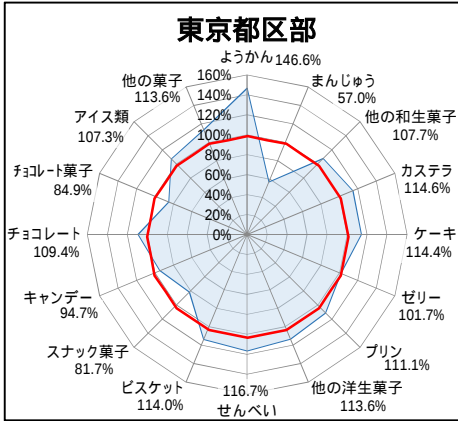
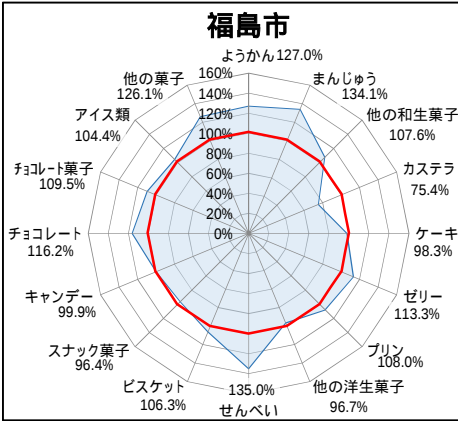
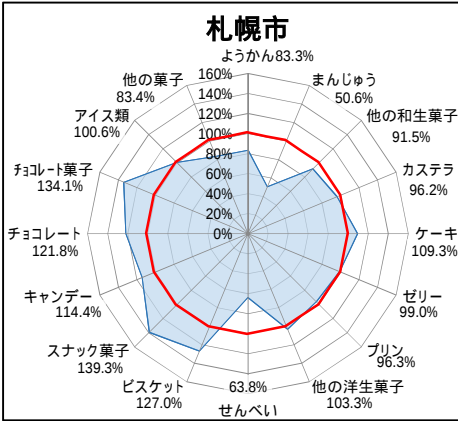
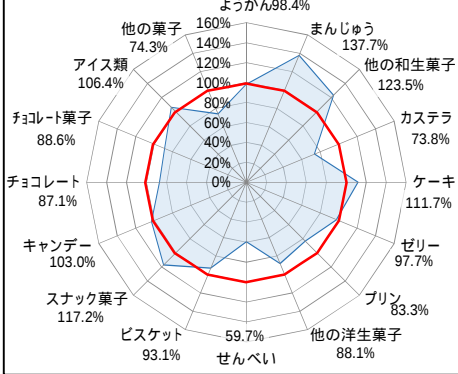
結果は右の図のようになりました。熊本市では和菓子が人気を博しているのか、「まんじゅう」、「他の和菓子」への支出額が全国平均よりも高いことが読み取れます。全体を俯瞰すると、熊本市では「まんじゅう」や「ケーキ」のような柔らかいものや、「スナック菓子」などを好む傾向がありそうですね。

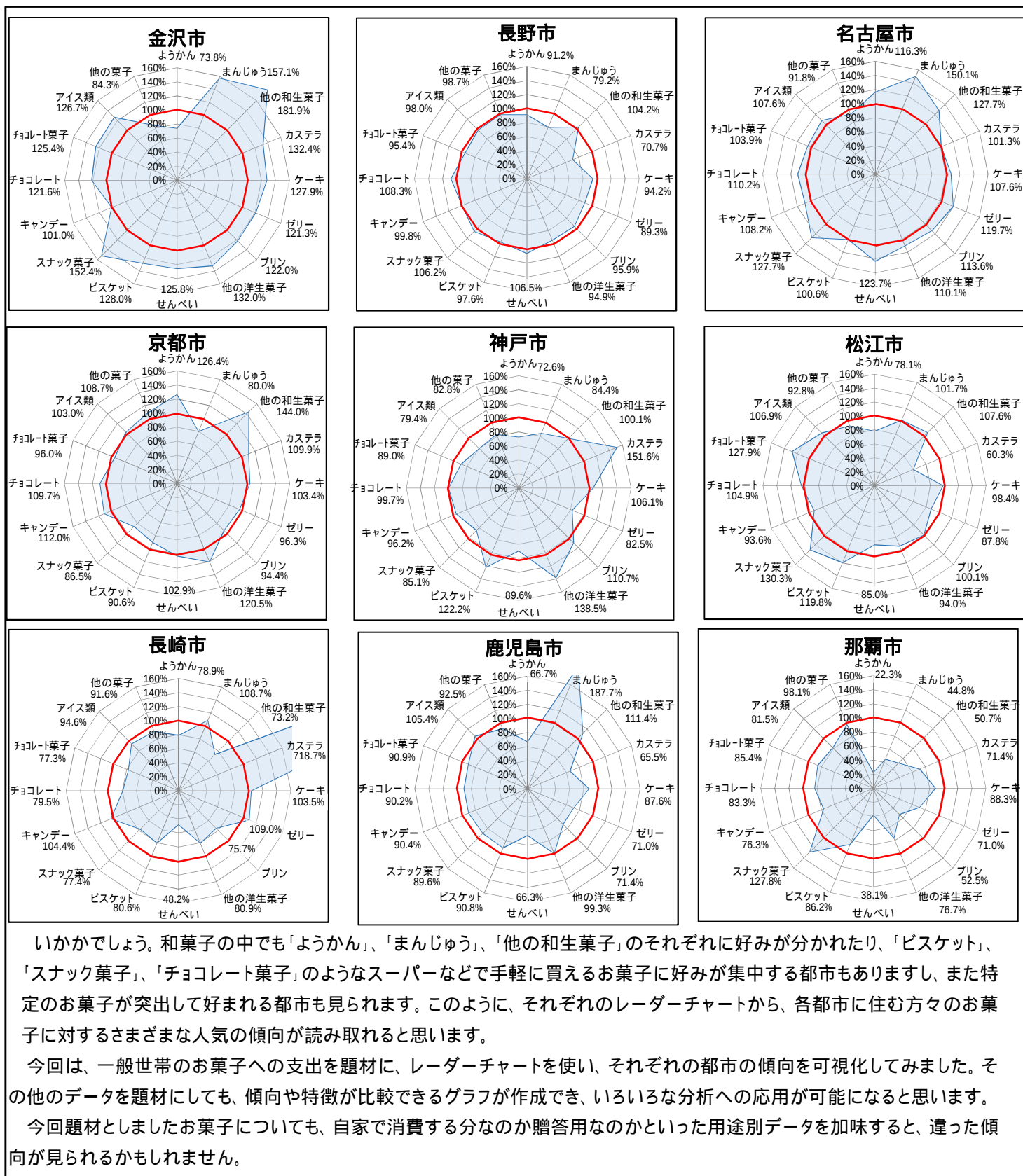
さて、家計調査では、日本全国の52都市のデータを取りあつかっていますので、このようなレーダーチャートを他の都市についても描くことができます。ページの都合、すべてを図示できませんが、以下、一部の都市について、お菓子別の支出傾向をレーダーチャートでお見せします。

熊本市のお菓子別の支出額及び割合



熊本市のお菓子別支出傾向





熊本県の統計情報は

「https://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の統計アラカルトは、1月中旬に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話：096-333-2174 / F a x : 096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計調査課 Facebook

https://www.pref.kumamoto.jp/kiji_15237.html?type=top

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成30年1月22日

県民の皆様には統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

「商業動態統計」を見ると、身近な「復興需要」の動きが分かる！？
～ “お堅い名前の統計書” には、身近なデータがいっぱい載ってます ～

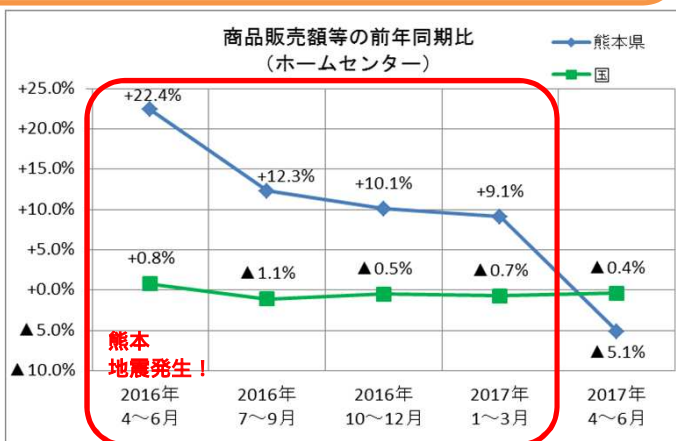
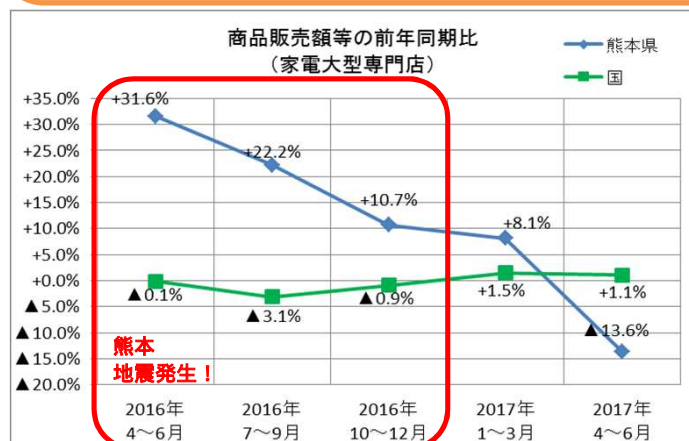


【はじめに】

今回は、「商業動態統計(H29.6月分)」(経済産業省)という“お堅い名前の統計書”を使って、主に、国と県の伸び率(前年同期比)の差を見ることで、「平成28年熊本地震」から約1年間の本県の「生活関連の」復興需要」の動きについて見ていきたいと思います。

ここで言う「生活関連の」復興需要」とは、壊れた家屋等の応急修理(ひび割れ補修、ブルーシート張り等)を自力で行ったりするための物品・資材等の購入、各種防災グッズの追加購入、壊れた家電や生活用品の買替など、復興の中でも特に生活に身近な比較的小規模の需要と考えて話を進めていくことにします。

「商業動態統計」には、「家電大型専門店」や「ホームセンター」等の毎月の売上データ等が載っています。



【家電大型専門店】

「2016年10～12月期」まで、約10～30ポイント以上、国より高い伸びとなってます。

これは、やはり、地震で使えなくなった **「家電の買い替え需要」** によるものと考えられるのではないのでしょうか。地震直後のゴミ置場には、壊れたステレオ、冷蔵庫、掃除機等の家電製品がずらりと並んでいたことが思い出されます。

なお、「2017年4～6月期」は、「平成28年熊本地震」のときの反動で国と逆転しているようですが、全体的な推移を見ると、その差は縮小傾向にあります。

【ホームセンター】

「2017年1～3月期」まで、約10～20ポイント以上、国より高い伸びが続いていました。

これは、地震で被災した建物の **「応急修理・防災対策関連の需要」** や **「生活用品の買替需要」** によるものではないのでしょうか。

応急修理用の資材関係については業者の需要も大きいと考えられますが、地震直後の時期は自力での応急修理(＝筆者もそうでした)や壊れた食器など生活用品の買替え、その後は頻発する余震に対する備えなど、**被災した個人の需要もたいへん大きかった**のではないかと思います。

なお、「2017年4～6月期」は、「平成28年熊本地震」のときの反動で国と逆転しているようですが、全体的な推移を見ると、その差は縮小傾向にあります。



【コンビニエンスストア】

データの掲載がないため、熊本地震の起こった「2016年4～6月」の状況は残念ながら不明ですが、「2016年10～12月期」までは、10ポイント以上、国より高い伸びとなっていることが分かります。これは、県外からの地震復興従事者(主に、土木・建築系)の増加も一因として考えられるでしょう。コンビニで弁当や飲み物を購入されている姿を見かけることも多かったのではないかと思います。なお、「2017年4～6月期」にはその差も0.7ポイントとなるなど、縮小傾向が続いています。

【百貨店・スーパー】

目を引くのは、「2016年4～6月期」と「2017年4～6月期」です。前者は、熊本地震直後に一時休業や縮小営業を余儀なくされた店舗が多かったこと、後者は、その反動ではないでしょうか。「2016年4～6月期」には国より約20ポイント低かったものの、次の「2016年7～9月期」には約2ポイントのプラスへと、短期間に業況が大きく好転していることも特徴的です。これは、これまでに見てきた他の分野と同様、店舗側が早期完全再開に向けて大変な努力をされ、消費者側の大きな期待に応えられたことがその一因ではないでしょうか。なお、「2016年7～9月期」からは、国を上回る状況がずっと続いています。



【まとめ】

ここまで、「生活関連の「復興需要」」について、「平成28年熊本地震」から約1年間の動きを見てきましたが、総じて、県と国の伸び率の差は縮小傾向にあり、地震後1年経った「2017年4～6月期」には、「生活関連の「復興需要」」は少しずつ落ち着きを見せてきていたと言えそうですが、みなさんはどう思われますでしょうか？

今も復興の途中ではありますが、地震からの復興が着実に一步一步進んでいると信じたいものです。

【補足】

今回お伝えしたかったのは、「統計書って、名前は「お堅い」けど、中味は意外と身近なデータが載ってて、おもしろいものなんですよ！」ということであり、少しでも「統計」に興味を持っていただければ幸いです。

最近では、統計データを扱うことを専門とする「データサイエンティスト」という職種もクローズアップされてきているようですので、興味のある方は、いろんなデータを「料理」し、いろんな分析を自分なりに楽しんでいただければと思います。



熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、2月中旬に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1
電話：096-333-2174 / Fax：096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報

平成 30 年 3 月 14 日

県民の皆様には統計を身近に感じていただくためのページです。
毎月 1 回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

熊本県民の「趣味・娯楽」は？

平成 29 年 11 月 14 日号に引き続き、平成 28 年に実施された社会生活基本調査の結果をご紹介します。

社会生活基本調査は、生活時間の配分や余暇時間における主な活動の状況など、国民の社会生活の実態を明らかにするための基礎資料を得ることを目的として、5 年ごとに行われている調査です。直近では平成 28 年 10 月 20 日を基準日として行われ、昨年 12 月に調査結果が公表されました。

調査は「生活時間」と「生活行動」について行いましたが、今回は「生活行動」の中の「趣味・娯楽」部分を見てみましょう。なお、「生活行動」では他にも「学習・自己啓発・訓練」、「ボランティア活動」、「スポーツ」、「旅行・行楽」の項目で調査を行いました。

まず、全国の状況を見てみましょう。

【全国】

「趣味・娯楽」の行動者率は 87.0% で、5 年前より 2.2 ポイント上昇しました。年齢階級別にみると、10～14 歳が最も多く、年齢が高くなるにつれおおむね低下しています（グラフはありません）。

次に、熊本県の行動者率を見てみましょう。

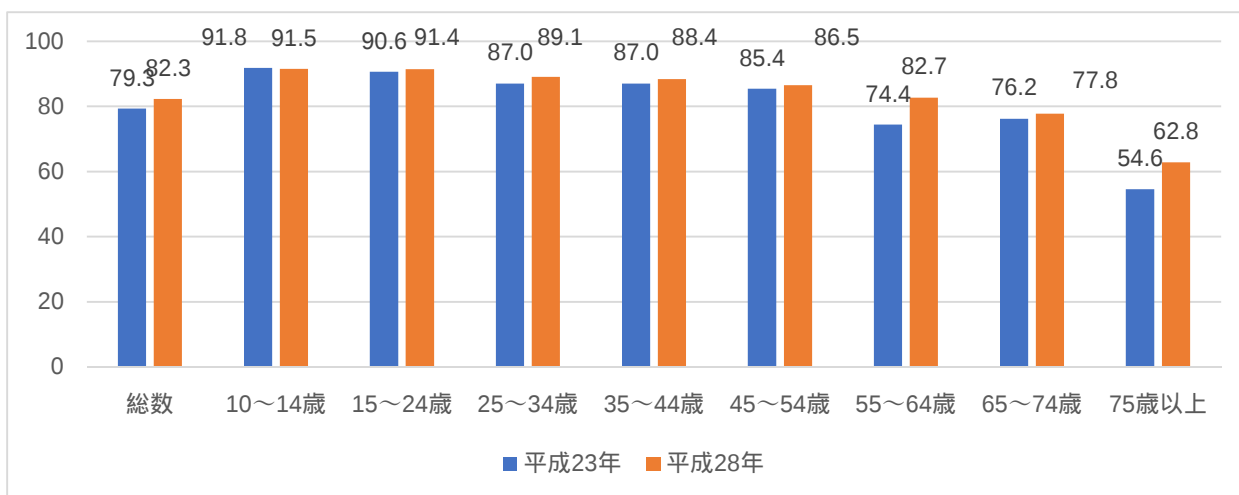
【熊本県】

「趣味・娯楽」の行動者率は 82.3% で、5 年前より 3.0 ポイント上昇しましたが、全国平均より低くなっています。年齢階級別にみると、10～14 歳が最も多く、年齢が高くなるにつれおおむね低下しています。

趣味・娯楽の年齢階級別行動者率のグラフは次のとおりです。

「趣味・娯楽」の年齢階級別行動者率（平成 23 年、28 年）

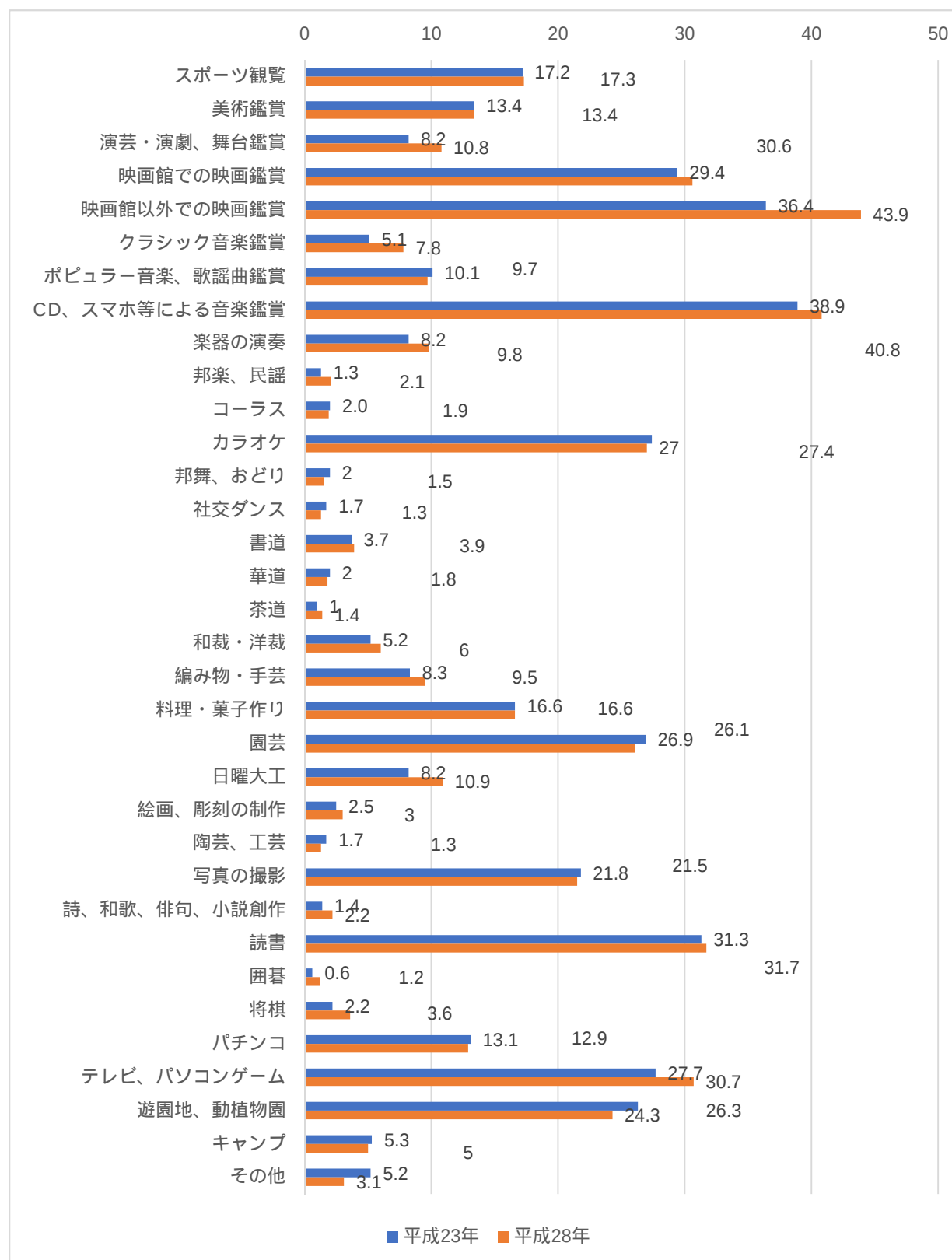
（単位：％）



続いて、調査項目ごとの行動者率を、平成 23 年と 28 年で見てみましょう。グラフを見ると「映画館以外での映画鑑賞」における行動者率の伸び率が高くなっています。

「趣味・娯楽」の行動者率（平成 23 年と 28 年の比較）

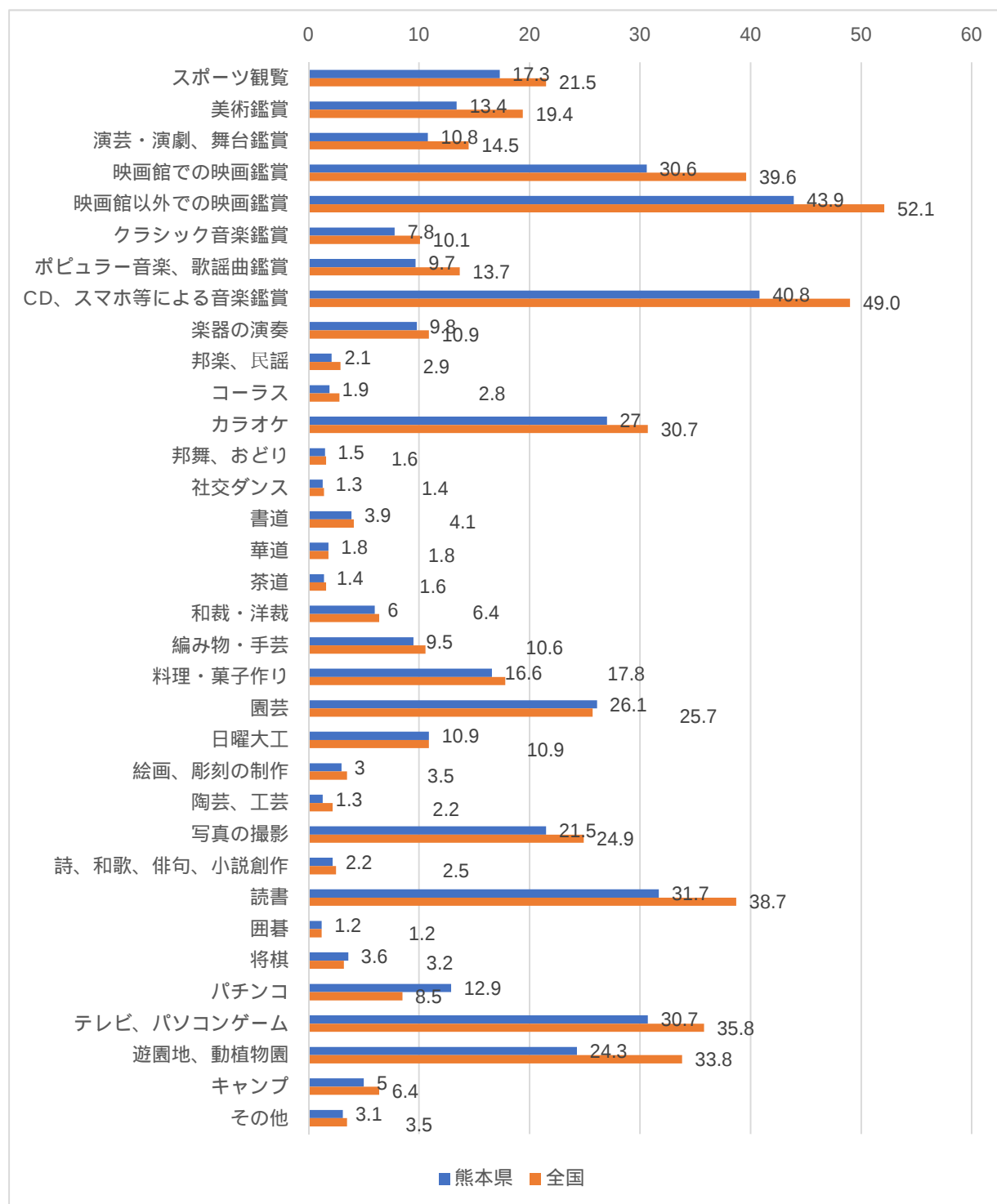
（単位：％）



最後に、平成 28 年の「趣味・娯楽」の行動者率を、熊本県と全国で比較してみましょう。
グラフを見ると、「園芸」と「パチンコ」において全国より、行動者率が高くなっています。

「趣味・娯楽」の熊本県および全国の行動者率（平成 28 年）

（単位：％）



熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

今回の「統計アラカルト」は、3月下旬に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話：096-333-2174 / Fax：096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp